

一時の状況に流されることなく、過去の経緯も踏まえた賢明な歩みを。

都市計画は公共性が極めて高い上、市民生活に与える影響がとても大きいので、全ていっぺんに判断せず少しずつ積み上げていく仕組みになっています。一度決定した計画は、時代に合わせた柔軟な対応も必要ですが、根本的な方針変更は「これまで判断の積み重ね」や「新たに生じるリスク」を考え、慎重でなければなりません。また、住民の方々の支持に基づくこれまでの判断の積み重ねは「住民の負託」の結晶です。次の政策を考える際には「過去・現在・未来」のつながりが大切です。

J R 芦屋駅南側の地域は市の玄関口となる重要な拠点です。現在および未来の利用者の安全・安心も大きく左右します。一時の状況に流されることなく、過去の経緯も踏まえた賢明な歩みを期待したいです。

芦屋西宮市民法律事務所 弁護士 津久井進さん



送迎のためのスペースができれば交通課題の解決につながる。

J R 芦屋駅周辺は、違法駐車が増え、送迎のためのスペースが確保できれば交通課題の解決につながると思います。

「安全で快適な歩行空間の確保」のため、駅前等におけるエレベーター等の設置やスロープ化、立体横断施設の整備は、高齢者や障がい者の安全のために望ましいと考えます。

芦屋警察署長 野上和志さん



行政と地域と事業主の三者が一体となって、さらなる魅力発信に繋がることを期待。

駅の南口を利用して他市から来られるお客さまに「駅前なのに静かですね」とよく言われます。私も北に比べて南はなぜこんなに閑散としているのだろうと前から思っていました。今は茶屋之町を中心に、それぞれの事業主が努力したステキな店舗が集積し、全国に対して魅力的なスポットとして発信できていると思います。このプロジェクトをきっかけに行政と地域と事業主の三者が一体となって、さらなる魅力発信に繋がることを期待しています。

RIO COFFEE 芦屋店 (株)アルタレーナ代表取締役 八木俊匡さん



南側の地域に新しい人達が入ることで、昔から続いてきた地域のコミュニティーが失われることを懸念。

芦屋は観光都市ではありませんが、JR芦屋駅を利用して美術博物館や谷崎潤一郎記念館などに来られる人が多くいます。沢山の人が利用する駅の南側には、バス停や一般の車が安全に停まれる場所を当然つくるべきだと思います。

再開発ビルが建設され南側の地域に新しい人達が入ることで、昔から続いてきたこの地域のコミュニティーが失われることを懸念しています。

「芦屋らしさ」をもった街並みを保つことは難しいのではないのでしょうか。

芦屋観光協会 会長 城純一さん



市民は芦屋市に誇りを持っているので、住みよい安全で安心なまちづくりに期待。

駅の北側は、デッキなども見通しが良く、子どもが安全に利用できる場所ですが、南側は道路の道幅が狭いうえに、路上に駐車している車が非常に多く、バスの乗降場が危険なため、北側のバス停を使っている人たちがいるそうです。

南側の開発ではバスロータリーや、駅に直結するペデストリアンデッキができると便利ありがたいです。人の死角ができる場所へは防犯カメラの設置もお願いします。子どもたちが危険な目に合わないよう、万一のときに駆け込める場所や誰もが安全に避難できる施設が必要だと思います。

市民は芦屋市に誇りを持っているので、本当に住みよい安全で安心なまちづくりに期待します。

芦屋市青少年育成愛護委員会 会長 入江祝栄さん



気軽に来られる場所で市民活動ができれば開放的になり、より良いものに。

再開発ビルの中には、買い物ついでに誰もが参加でき、公園みたいに気軽に来られる場所で市民活動ができることを想像しています。このような場所ができれば、市内の市民活動は今よりも開放的になり、より良いものになっていくと思います。物事の進め方全てに言えることですが、議論によって進捗が停滞することは時間と機会の損失です。少しでも進めていながら修正していく方が良いと思います。

NPO法人フライパン 横山宗助さん



整備が予定されている交通広場を活用し、お客さまの利便性向上に繋げていきたい。

当社のバス路線はJ R 芦屋駅を挟み、市内の全域を南北に結ぶ運行をしておりますが、バスが接続する他の鉄道駅になる阪急芦屋川駅、阪神芦屋駅ともにバスロータリーが無く、バス路線の形態や運行面での課題を抱えています。このため、J R 芦屋駅南地区再開発事業に伴って整備が予定されている交通広場を活用し、お客さまの利便性向上に繋げていきたいと考えております。

阪急バス株式会社自動車事業本部営業企画部 計画課係長 森孝雄さん

